

DRUG



INFORMATION

2007 No. 27

平成19年11月1日発行

オピオイドによる副作用について

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

オピオイドによる副作用について

オピオイド鎮痛薬使用時には便秘はほぼ必発し、悪心・嘔吐の発現頻度も高く、これらの副作用は患者の QOL を著しく低下させ、服薬拒否による疼痛管理困難を招くことがしばしばあります。このため、オピオイド鎮痛薬を新規に処方するとき、あるいは増量する際には緩下剤および制吐剤を予防的に投与することがガイドラインで推奨されています。

当院でオピオイドが新規に投与された患者の便秘・悪心嘔吐対策の実施状況について調査したところ、約半数の患者に十分な対策がなされておらず、しかもこれらの患者では便秘や悪心嘔吐の発現が高いことがわかりました。このため、薬剤部では、オピオイドによるこれらの副作用の発現を少なくするための対策に取り組んでいます。

以下に、オピオイドによる副作用発生時の詳細について記載しております。オピオイドを処方される医師の方々には御協力下さいますようお願い申し上げます。

オピオイド鎮痛剤を処方される医師の皆様へ

オピオイド鎮痛薬による便秘はほぼ必発し、悪心・嘔吐の発現頻度も高く、オピオイド鎮痛薬を使用する際には、緩下剤および制吐剤を予防的に投与することが米国ガイドライン（National Comprehensive Cancer Network 2007）やがん疼痛治療ガイドライン（日本緩和医療学会）で推奨されています。

しかし、当院ではオピオイドによるこれらの副作用に対し、約半数近くの患者に予防的な投与がされておられません。そのため便秘、悪心、嘔吐および食欲不振の発現率は高いものになっております。

予防対策

オピオイド鎮痛剤を処方される際は必ず緩下剤 および 制吐剤 の同時処方をお願いいたします。

なお、処方内容は次に示すとおりです。

オピオイド新規処方、増量時には予防投与を！

- ① 緩下剤はオピオイド処方と同時処方、継続的処方
- ② 制吐剤はオピオイド処方開始から1～2週間処方

処方例)

Rp① 酸化マグネシウム散 (1包 0.67g) 3包

パントシン散 (100mg/0.5g) 3包

1回 各1包、1日3回、食前

Rp② ノバミン5mg錠 3～6錠

1回 1～2錠、1日3回、食前、**1～2週間**

- 緩下剤効果不十分の場合はプルゼニド錠 (1回 1～2錠、1日1回、就寝前) もしくはラキソベロン液 (1回 10～15滴、1日1回、就寝前) の追加を検討
- 制吐剤効果不十分の場合はナウゼリン (1回 10mg、1日3回、食前) もしくはセレネース錠 (1回 0.75～1.5mg、1日1回、就寝前) への変更を検討